

Kunen note

sy

2020 年 2 月 4 日

目次

0.1 完全性定理	1
---------------------	---

0.1 完全性定理

定理 0.1.1 (補題 2.12.3). 補題 2.12.2 から定理 2.12.1 が得られる.

略証. 健全性定理より $\Sigma \vdash \varphi$ なら $\Sigma \models \varphi$ となる. $\text{CON}_{\models}(\Sigma)$ であれば, $\mathfrak{A} \models \Sigma$ なるモデル \mathfrak{A} が取れるが, $\Sigma \vdash \varphi$ ならば $\mathfrak{A} \models \varphi$ となる. 従って $\mathfrak{A} \models \neg\varphi$ となる. 従って $\Sigma \not\models \neg\varphi$ となる. 以上より

$$\text{CON}_{\models}(\Sigma) \implies \text{CON}_{\vdash}(\Sigma)$$

となる. $\Sigma \models \varphi$ ならば $\Sigma \cup \{\neg\varphi\}$ を充足するモデルは存在しない. つまり $\neg\text{CON}_{\models}(\Sigma \cup \{\neg\varphi\})$. すなわち

$$\Sigma \cup \{\neg\varphi\} \vdash \perp.$$

すなわち $\Sigma \vdash \varphi$. ■

定理 0.1.2 (補題 2.12.6). $\tau \in CT_0(\mathcal{L})$ のとき $\text{val}_{\mathfrak{A}_0}(\tau) \equiv \tau$.

略証. $\tau \in \mathcal{F}_0$ なら $\text{val}_{\mathfrak{A}_0}(\tau) \equiv \tau_{\mathfrak{A}_0} \equiv \tau$. いま $\tau_1, \dots, \tau_n \in CT_0(\mathcal{L})$ に対して

$$\text{val}_{\mathfrak{A}_0}(\tau_i) \equiv \tau_i, \quad (i = 1, \dots, n)$$

と仮定すると,

$$\begin{aligned} \text{val}_{\mathfrak{A}_0}(f\tau_1 \cdots \tau_n) &\equiv f_{\mathfrak{A}_0}(\text{val}_{\mathfrak{A}_0}(\tau_1), \dots, \text{val}_{\mathfrak{A}_0}(\tau_n)) \\ &\equiv f_{\mathfrak{A}_0}(\tau_1, \dots, \tau_n) \\ &\equiv f\tau_1 \cdots \tau_n \end{aligned}$$

となる.

定理 0.1.3 (定義 2.12.9 の正当性の検証). $\text{val}_{\mathfrak{A}}()$ は商写像であるから同地類の代表云々は関係ない. 問題は $[\tau_i] \equiv [\sigma_i]$ のとき $f\tau_1 \cdots \tau_n \sim f\sigma_1 \cdots \sigma_n$ となり, $\Sigma \vdash p\tau_1 \cdots \tau_n \iff \Sigma \vdash p\sigma_1 \cdots \sigma_n$ となるか.

つまり $f_{\mathfrak{A}}$ が写像であるということを示すということ。定義 2.12.9 では商写像 $\text{val}_{\mathfrak{A}}(\tau) \equiv [\tau]$ から始めて、 $f \in \mathcal{F}_n$ の解釈を

$$f_{\mathfrak{A}} : ([\tau_1], \dots, [\tau_n]) \mapsto \text{val}_{\mathfrak{A}}(f\tau_1 \cdots \tau_n) \equiv [f\tau_1 \cdots \tau_n]$$

と定めている。

定理 0.1.4 (補題 2.12.10). 語彙 \mathcal{L} の文の集合 Σ を考える。ただし $\mathcal{F}_0 \neq \emptyset$ と仮定する。 $\mathfrak{A} = \mathfrak{C}\mathfrak{I}(\mathcal{L}, \Sigma)$ としよう。このとき

(1) \mathcal{L} の閉項 τ に対して $\text{val}_{\mathfrak{A}}(\tau) \equiv [\tau]$ 。

略証. (1) について、 $\text{val}_{\mathfrak{A}}()$ はもともとそのように設定されているのでこの問いはナンセンス。